



夏季手当第2回交渉報告会開催！！

出席した各機関代表から怒りの声が出される！

6月1日、中央本部は申13号「2023年度夏季手当等に関する」申し入れの第2回交渉終了後、報告集会を開催しました。出席した全地本の代表者からは、会社の回答に対して、怒りと不満、職場で実践して掴んだ声が出されました。

報告会の終了後、千葉地本で参加した各機関の代表者からも同様な意見や、職場で様々対話した意見が多く出されました！



各機関代表者からの声（抜粋）

- 満額回答を示す姿勢が感じられない。それなのに昨年より役員報酬が倍近くになっている。しかも役員が減っているから一人当たりの平均額が増えている。
- 目標に届かなければ労働者の責任で、経営者が責任をとるところか、報酬があがるという資本の論理であることが明確になった。
- 経営姿勢を変えるために、社内世論を更に変えるたたかいをつくらないと低額回答になる。
- 約5000円のベアが出ても、過去最低の人件費。早期回答と言っているので議論する気が感じられない。
- 黒字になったが楽観できない。順風満帆ではないと言って、回答を示す気が感じられない。7300件を受け止めていない。それが会社の姿勢である。この事実を組合員一人ひとりに伝えたい。
- 1000億の目標で909億の営業利益を出したのは現場の労働者の力だ。目標に達せなかったのは経営手法の責任だ。
- コロナ禍でも人件費が削減され設備投資が増えているが、今後もこの姿勢が続く可能性がある。

職場集会を開催し、各職場で本部情報第117号～129号の読み合わせをして満額回答に向け職場で議論しよう！